

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 102人

② 算数 102人

#### 5 留意事項

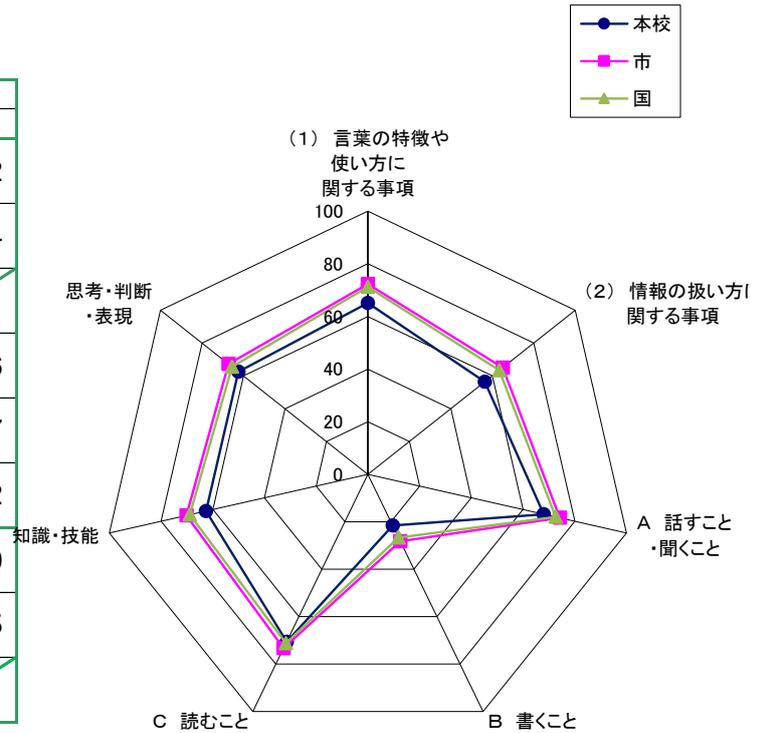
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立五代小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.1	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	56.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	68.0	74.2	72.6
	B 書くこと	21.6	28.2	26.7
	C 読むこと	70.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	62.6	70.2	68.9
	思考・判断・表現	62.5	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



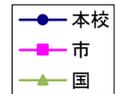
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率については、全国平均を6.1ポイント下回っている。</p> <p>○「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」に関する設問は、全国平均をやや上回っている。</p> <p>●「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」に関する設問は、全国平均を10.2ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、授業の導入や朝の学習の時間などで、既習の漢字の定着を図る。また、文章の中でも正しく使えるように配慮する。</p> <p>・自分の考えを発表する際に、話し言葉と書き言葉を正しく使えるように指導していく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率については、全国平均を7ポイント下回っている。</p> <p>○「無解答率」が全国平均より低かった。</p> <p>●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」に関する設問は、全国平均を10ポイント下回っている。</p>	<p>・これからも興味をもって課題に取り組めるよう工夫をしていく。</p> <p>・日常生活の中でパソコン等のICT機器や模型などを活用した授業を行い、正しく使えるように指導していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率については、全国平均を4.6ポイント下回っている。</p> <p>○「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」に関する設問は全国平均をやや上回っている。</p> <p>●「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」に関する設問は、全国平均をやや下回っている。</p>	<p>・話し合いをする場面では、まず、話し合いを始める時点での自分の考えを明確にすることを指導していく。話し合いをしていく中で意見が変わった場合は、その理由をもとに自分の意見を整理し、最終的にまとめられるよう助言する。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率については、全国平均を5.1ポイント下回っている。</p> <p>●「無解答率」が全国平均より高かった。</p> <p>●「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかどうかをみる」に関する設問は、全国平均を5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・問題文や説明文をじっくり読み、何について書かれているか文章の構成を読み取っていく。さらに、何を伝えるかによって書き表し方が変わっていることに気付けるよう、文章の違いが捉えられるようにしていく。</p> <p>・図や表、グラフなどを用いて自分の考えを伝えられるように指導していく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率については、全国平均を5.1ポイント下回っている。</p> <p>○「無解答率」が全国平均より低かった。</p> <p>●「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」に関する設問は、全国平均をやや下回っている。</p>	<p>・登場人物の心情などについて、どの表現からどんな心情を読み取れるか、文章の描写に根拠を求めて読み取るよう指導していく。</p> <p>・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるように助言する。</p>

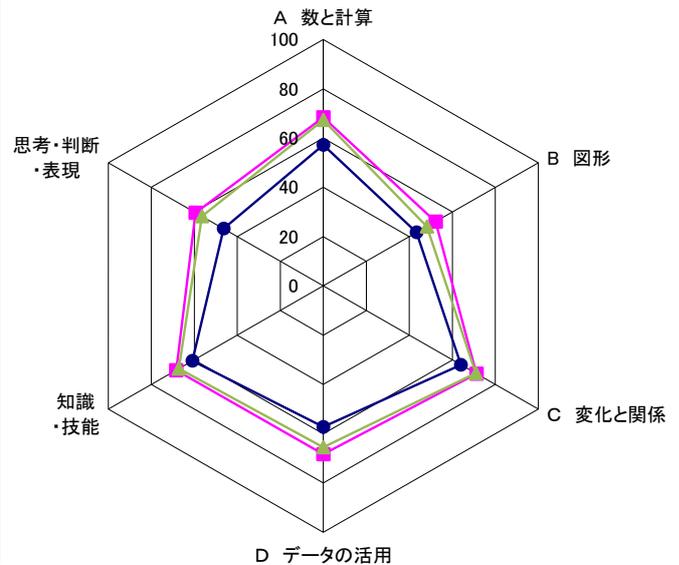
# 宇都宮市立五代小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.2	68.4	67.3
	B 図形	43.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	64.0	71.2	70.9
	D データの活用	57.2	68.3	65.5
観点	知識・技能	60.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	46.4	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率については、全国平均を10.1ポイント下回っている。</p> <p>○「無解答率」が全国よりも低かった。粘り強く取り組む指導の成果であると考えられる。</p> <p>●「( )を用いた式や加法と乗法の混合した式の読み取り」や「加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則の利用」に関する設問における正答率は、全国平均を大きく下回っている。</p>	<p>・乗法や除法の計算の仕方を確認し、継続的に反復指導して定着を図る。どの単元に関わらず、毎時間少しずつ取り組んでいくことによって内容・技能の定着を図っていく。技能の個人差が大きいので、個に応じた支援を行っていく。</p> <p>・問題場面を適切に理解し、数学的に表現することができるようにする。立式する際には、式の意味を理解できているかどうかを、言葉や図、グラフ、数直線等で説明するなどして確認し、根拠をもって立式ができるような指導をしていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率については、全国平均を4.8ポイント下回っている。</p> <p>○「無解答率」が全国よりも低かった。粘り強く取り組む指導の成果であると考えられる。「正方形の意味や性質」についての設問における正答率は、全国と同程度であった。</p> <p>●「台形の意味や性質について理解している」に関する設問における正答率は、全国平均を大きく下回った。</p>	<p>・「図形を構成する要素」や「公式を覚える」ことだけに留まらず、それらを導き出す過程や考察理由をしっかりと押さえるなど、真の意味を理解するための指導を大切にしていく。</p> <p>・指導に当たっては、パソコン等のICT機器や模型などを活用した授業を行い、実際に児童に操作させたり、視覚的な面からも理解を深められたりできるようにしていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率については、全国平均を6.9ポイント下回っている。</p> <p>○昨年度のどちぎっ子学習状況調査の市平均より、下回ってはいるが、差が小さくなった。</p> <p>●特に、「伴って変わる2つの数量が比例の関係ではないことを説明する」設問や、「伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」設問において、全国平均を9ポイント以上下回った。</p>	<p>・数直線や図などを使って、数値の関係性を正しく捉えて問題に取り組めるような指導をしていく。</p> <p>・自分の考えを友達に伝えたり、文章にして表現したりする活動に取り組みせ、理由や根拠を示しながら説明できる力を身に付けられるようにする。</p> <p>・実生活に結びつくような課題を設定し、解決できた喜びを実感できるような課題を設定していく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率については、全国平均を8.3ポイント下回っている。</p> <p>○「『以上』の意味を理解し、必要な情報を読み取る」設問における正答率は全国平均と同程度であった。</p> <p>●「複数のグラフを組み合わせたグラフを読み、違いを言葉と数を用いて記述する」設問に関する正答率は、全国平均を大きく下回った。</p>	<p>・グラフの読み取りの学習では、目的に応じて各項目の数量の大きさを読み取るだけでなく、項目間の関係や全体的な特徴などを読み取る活動も重視して指導していく。</p> <p>・文章問題への苦手意識を減らすために、他教科においても文章問題を解く機会を設けて、内容を正しく把握する力を身に付けられるよう繰り返し指導する。</p> <p>・算数に限らず、他教科や日常生活の場面における資料を活用していくことで、児童の興味関心を高めた活動を展開していく。</p>

## 宇都宮市立五代小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問では、92.2%の児童が肯定的回答をしている一方で、「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した児童も7.7%いる。朝食の必要性について、児童に引き続き指導をし、家庭にも呼びかけていきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が89.3%で、県平均と比較すると約4%、全国平均と比較すると約6%高い。教育相談や日々の生活の中で児童一人一人のよいところを教師からも伝えていくことで、児童が自分のよさに気づき豊かな学校生活を送れるように援助していきたい。

○「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が66%で、県平均と比較すると約11%、全国平均と比較すると約13%高い。併せて、「英語の勉強は好きですか」の質問での肯定的回答割合も、県・全国平均をともに上回っている。児童の英語に対する高い意欲や必要感を今後も維持し、知識の定着へとつながる指導をしていきたい。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の質問では、計画を立てて勉強をしていると回答した児童の合計割合が77.7%で、県平均と比較すると約2%、全国平均と比較すると7%高い。一方、一日当たりの学習時間については、平日・土日の両方の質問において、平均の学習時間を下回る結果となった。今後、望ましい学習時間や学習方法について児童に伝えていくことで、知識を確実に身に付けられるように指導をしていきたい。

●「読書は好きですか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が68%で、県平均と比較すると約5%低い。朝の読書の時間や読み聞かせの機会を通じて、児童が本と関わる時間を日常的に設けていきたい。

●PC・タブレットに関する複数の質問において、勉強のために毎日使用していると回答した児童の割合が県平均や全国平均と比較すると低い傾向が見られる。引き続き指導を行い学校生活において十分に慣れ親しみ、文具の一部として扱えるようにしていきたい。

## 宇都宮市立五代小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組む、課題を解決できる手立ての工夫	・宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。 ・結果の予想や課題解決の仕方など、学習の見通しを立てられるようにする。	・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。 ・漢字や計算に個人差がみられる。基礎・基本となる知識・技能の定着が不十分で、前年度までに身に付けておくべき学力が備わっていない。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と、基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。	・基礎基本、既習内容の定着 ・基本的な学習態度の指導徹底	・朝の学習の時間を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。